

その男（ひと）は着流しの 背丈に似合わぬ長刀の出で立ちをしていた
国外で脅威を目の当たりにし ピストルを手に入れた
恩師の言葉を支えとし ひとり国内の情勢に立ち向かった
勝利を治めるひとつ手前の病の中 家族仲間に見送られ
静かに息を引き取った

その女（ひと）は帯をキリリと締めた 清楚な出で立ちをしていた
眼差しは一筋の道を見据え 子どもの手を引いていた
主人を信じ 家族を信じ 笑顔を絶やさず
今も息吹を絶えさせてはいない

その女（ひと）は質素な着物も魅力を放つ着こなしをしていた
静かに芸を磨き 奏でる三味の音はいつも風情に色を添えた
主人の眠る約束の地で余生を静かに送り 慰めの調べに身をやつした

その男（ひと）は仰ぐ背丈に傷む羽織を纏い 真直ぐな眼差しをしていた
身分をわきまえながらも 優しい家族に包まれ 人を引きつけた
縦横無尽に立ち振る舞いながらも 情勢を変える光を掴もうとしていた。
譲られたピストルで一度は救われながらも 世明け前に命を落とした

その女（ひと）は糊気のない慎ましい絵柄の着物を羽織ることを常とした
自身よりも家族に寄り添い 大柄な自身を持って大柄な弟を励ました
負けず嫌いで文にも武にも長けながらも 一步退く生涯を全うした

その女（ひと）は粋な着物を侘なくこなし はだけた襟も気にしなかった
生まれも育ちも構うことなく 好きな相手にトコトン付き合った
先立った相手に想いを馳せ 酒も涙も自分の身分と粋狂に生き通した